

2022年度名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程 名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻 学生募集要項 (2022年4月入学)

概要

名古屋大学大学院工学研究科では、マテリアル工学分野における国際的リーダーとなりうる博士人材を育成するため、チュラロンコン大学と共同で、一つの大学だけでは提供できない魅力ある新たな教育プログラムを構築した。このジョイント・ディグリー・プログラムでは、国際的な研究者である両大学の教員から指導を受けながら、マテリアル工学分野における最先端の国際的共同研究、高度専門基礎知識を修得するためのセミナー及び産業界の専門家からSDGsの達成を実現するための材料・エネルギー技術や材料・エネルギー循環技術に関してケーススタディを交えて学ぶ科目を両大学で開講し、産業界との連携とそのための人材育成を行う。

修了者には、当該学生の能力の高さを世界標準で保証すべく、2大学連名で単一の学位「博士(工学)」(英語は Doctor of Philosophy)を授与する。

なお、この専攻の教育課程期間は3年間を標準とし、学生は原則として2年次の1年間、チュラロンコン大学に滞在し、研究を行う。

主な研究分野

マテリアル工学 国際目標であるSDGsの達成を目指した材料・エネルギー技術や材料・エネルギー循環技術の開発とそのメカニズム解明するための材料設計、プロセス、実用システムと材料・エネルギー循環について、基礎研究からプロセス、社会実装までのものづくりに関する研究を行う研究分野。

アドミッション・ポリシー

創造的な研究活動によって真理を探究する知的好奇心に満ち、工学・材料科学分野に関連する基本的な知識と理解力を備える一方で、多様な文化・環境への高い関心と適応力を持ち合わせた人材を求める。環境・文化の異なる2つの大学で共同学位の取得を強く希望し、将来は材料開発、環境・エネルギー分野での専門性を活かし、グローバル社会を牽引し、世界を場に活躍するリーダー的人材になるなどのビジョンを持つ者が望ましい。

ディプロマ・ポリシー

所定の修業年数である3年以上在学し、設定された教育プログラムを履修の上、研究指導を受け、日本の法令及び本学で規定された修了要件を満たすほか、タイの法令及びチュラロンコン大学で規定された修了要件を満たすことで、博士(工学)の学位が授与される。本専攻では、以下のとおり、チュラロンコン大学との協議で合意したディプロマ・ポリシーを定め、マテリアル工学の高度専門知識とそれを応用する能力を持ち、国際的な学術界と産業界との橋渡しを実現することで人類の持続可能な発展に貢献する能力を有する学生に学位を授与する。

- ・自然科学分野の深く多様な学問的素養と高い研究推進能力を体得した証として、課程で学び、得た学問的成果を体系的に論じた学位論文を書き上げること。
- ・高い倫理性や豊かな国際性、科学的論理性や創造力を身に付け、国際的な共同事業や共同研究を推進できることの証明として、両大学の教員等により組織される合同学位審査委員会が審査を行い、最終口頭試問を経て合格と判定されること。

カリキュラム・ポリシー

我が国とタイ王国の大学の最先端工学教育や製造業を中心とする産業における専門的工学教育のグローバル化を見据え、高度な学術研究を基盤とした教育を展開するとともに、狭い範囲の研究領域ばかりでなく、幅広く高度な知識・能力を身につける。

本専攻では、学位授与に要求される知識・能力、及びリサーチマインドを有する国際性豊かな高度専門研究開発人材に求められる、より高度な専門知識・技術及びリーダーシップ・国際性を修得するために、両大学の合意に基づき、以下に示した方針でカリキュラムを編成する。

- 1)英語を共通語としたコミュニケーションを円滑に行うことのできる語学能力及びグローバルな視点の獲得を目指し、授業は日本・タイ両国でそれぞれ一定期間履修することを原則とし、日本・タイ両国の教員による英語を用いた指導を行う。
- 2)最新の知見のレビューに基づく工学系、特に材料・環境・エネルギー分野における世界的な動向の把握と、両国における工学並びに産業の背景や実情の学習を通じて、国際的に通用するための総合的で論理的に思考する能力を獲得することを目指した指導を行う。
- 3)講義科目により得た知識・能力などを実社会で実践していくためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を獲得するため、日本・タイ両国において研究を行い、さらに両国の教員・学生の合同によるセミナーを行う。
- 4)様々な文化的背景を持つ地域に根ざして実社会の課題を読み解く能力を獲得し、そこから独創的で新しい発想へと展開させることを目指し、互いに相手国で一定期間居住し、異文化において生活しながら履修する。
- 5)大学で得られた研究成果を産業界へ展開する能力を修得させるため、産業界で求められる応用展開事例や生産技術を学ぶための講義・実習を設ける。
- 6)材料・環境・エネルギー系専門分野に関する特定の研究課題について、主体的な研究活動において科学的根拠に基づいた独創性・実践性の高い論文を作成できるよう両大学で指導を行う。

◇新型コロナウイルス感染症の拡大や、不測の事態が発生した場合の諸連絡

新型コロナウイルス感染症の拡大、その他災害等に伴い、試験日程や選抜内容等に変更が生じる場合があります。

この場合、次のホームページにより周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。

○工学研究科ホームページ <https://www.engg.nagoya-u.ac.jp/>



1. 出願資格

次の各項目のいずれかに該当する者。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を授与された者及び2022年3月末日までに授与される見込みの者
 - (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2022年3月末日までに授与される見込みの者
 - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2022年3月末日までに授与される見込みの者
 - (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2022年3月末日までに授与される見込みの者
 - (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び2022年3月末日までに授与される見込みの者
 - (6) 外国の学校、上記資格(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、博士論文研究基礎力審査に相当するものに合格した者及び合格する見込みの者で、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号)
 - 一 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者及び2022年3月末日までに2年以上従事する見込みの者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - 二 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者及び2022年3月末日までに2年以上従事する見込みの者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者(注)9頁の「出願資格(7)により出願する者について」を参照すること。
 - (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、2022年3月末日までに24歳に達する者
- (注)10頁の「出願資格(8)により出願する者について」を参照すること。

2. 募集人員

若干名

3. 願書受付期間

2022年1月17日(月)～1月20日(木)16時(郵送必着)

4. 出願書類

入学志願票等の所定用紙は、以下の本研究科ホームページからダウンロードし、A4判用紙に印刷のうえ、特に指定のない限り英語で記入すること。

<https://www.engg.nagoya-u.ac.jp/prospective/graduate/admission.php>

【出願書類記入上の注意】

- ▶ 出願書類は、拡大・縮小はおこなわずにA4版用紙で白い用紙に印刷すること。
- ▶ 出願書類は、特に指定のない場合を除いて、英語で記入すること。
- ▶ 記入に当たっては、文字は楷書、数字は算用数字、英字は大文字活字体で、正確・明瞭に黒のボールペンで記入すること。消しゴムで消せるボールペンは使用しない。

▶ 訂正を行う場合は、二本線で取り消し、訂正印(認印)を押した上で、再度余白部分に記入すること。修正液等は使用しない。

| | 出願書類等 | 注意事項 |
|---|---|--|
| 1 | 進学・入学志願票, 受験票, 写真票 | <p>本研究科ホームページから所定用紙を印刷し、必要事項を記入の上、写真票に写真(3か月以内に撮影したもの)を貼ること。</p> <p>受験票は、出願期間メ切後、郵送で本人に交付する。試験日1週間前までに届かない場合は、教務課入学試験係に連絡すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願票の職歴欄は、職歴なしの場合は、“None”と記入すること。 ・大学に編入学した者は、志願票の職歴欄に編入学前の学歴を記入すること。 |
| 2 | 学業成績証明書 (原本) | <p>学部及び修士課程(博士前期課程)におけるもの。</p> <p>日本語または英語で作成されたものを提出のこと。</p> <p>日本語または英語以外で作成されている場合は、英語の訳文を添付すること。</p> <p>自身で翻訳する場合には、日付を記載し、自筆署名すること。</p> <p>本学工学部出身者は、学部の学業成績証明書は提出不要。</p> <p>本学工学研究科出身者及び出願資格(7)により出願する者は、修士課程(博士前期課程)の学業成績証明書は提出不要。</p> <p>出願資格(8)により出願する者は、提出不要。</p> |
| 3 | 修士の学位又は専門 職学位を授与された者 (又は見込み)であるこ との証明書 (原本) | <p>日本語または英語で作成されたものを提出のこと。</p> <p>日本語または英語以外で作成されている場合は、英語の訳文を添付すること。</p> <p>自身で翻訳する場合には、日付を記載し、自筆署名すること。</p> <p>本学工学研究科出身者は提出不要。</p> <p>出願資格(7)又は(8)により出願する者は、提出不要。</p> |
| 4 | 修士論文の概要 又は 研究経過の概要 | <p>修士の学位又は専門職学位を有する者は、修士論文の概要を提出すること。</p> <p>2022年3月末日までに修士の学位又は専門職学位を有する見込みの者は、研究経過の概要を本研究科ホームページから所定用紙を印刷し、英語1,000語程度で提出すること。</p> <p>パソコンで作成する場合は、本研究科ホームページ掲載の様式にならば、1行40字程度で作成すること。</p> <p>出願資格(7)又は(8)により出願する者は、提出不要。</p> |

| | | |
|----|---|--|
| 5 | <p>下記いずれかの英語検定試験公式スコアシート(原本)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TOEFL iBT ・IELTS ・TOEIC 公開テスト Listening & Reading | <p>左記の英語検定試験いずれかひとつの公式スコアシートを提出すること。詳細は下記のとおり。</p> <p>【TOEFLのスコアシートについて】</p> <p>TOEFL のスコアシートは、以下の①と②の両方を提出すること。</p> <p>①公式スコア「Institutional Score Report」又は「Official Score Report」</p> <p>②受験者に届く「Test Taker (Examinee) Score Report (コピー)」</p> <p>なお、スコアシートを提出する際は、以下の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 「Institutional Score Report」又は「Official Score Report」は、出願期間最終日まで ETS から名古屋大学に届くように所定の手続きをすること。(手続き時に名古屋大学の Institution Code 0312, Department Code を適切に指定すること。適切な Department Code が無い場合は、99 と指定すること。)なお、TOEFL の受験後「Institutional Score Report」又は「Official Score Report」が指定送付先に到着するまでに 6～8 週間程度かかると思われる。到着が遅れる場合もあるので、十分な時間的余裕を持って TOEFL を受験すること。 ◇ 「Institutional Score Report」を提出する場合は、「Test Date Scores」のみを活用する(「MyBest TMScores」は採用しない。) ◇ 出願書類提出時に「Test Taker (Examinee) Score Report」のコピーを提出すること。また、試験期間中この原本を必ず携帯すること。 |
| 6 | <p>入学検定料 30,000 円</p> | <p>入学検定料は、6頁の「6. 検定料の払込方法」を参照の上、コンビニエンスストア又はクレジットカードで払い込むこと。払い込み後、自ら印刷した「収納証明書」を入学検定料収納証明書貼付台紙の所定欄に貼付すること。ただし、海外からの出願者は、入学検定料を払い込む前に、教務課入学試験係に事前連絡すること。</p> <p>本学大学院研究科博士前期課程(修士課程)を修了し、引き続き本課程に進学する者及び国費外国人留学生は、入学検定料は不要。</p> <p>なお、他大学大学院から受験する国費外国人留学生は、「国費外国人留学生証明書」を提出すること。</p> |
| 7 | <p>【外国籍者のみ】 「在留カード」の両面コピー又は「住民票の写し(原本)」</p> | <p>「住民票の写し」は在留資格、在留期間の記載されたもの(発行申請時に申し出が必要)。</p> <p>海外在住者においては、パスポートのコピー(顔写真のある頁)を提出し、入学手続き時に必ず左記のうちいずれかを提出すること。</p> |
| 8 | <p>【在職者のみ】 受験承諾書</p> | <p>所属の長等が証明したもの。 様式は、本研究科ホームページから所定用紙を印刷すること。</p> |
| 9 | <p>【官公署在職者のみ】 研究計画書</p> | <p>官公署在職者のみ提出すること。 本研究科ホームページから様式を印刷し、作成すること。</p> |
| 10 | <p>【官公署在職者のみ】 入学後学業に専念させる旨の所属長の承諾書(原本)</p> | <p>官公署在職者のみ提出すること。 様式任意。</p> |

| | | |
|----|-----------|--|
| 11 | 受験票送付用封筒 | 長形3号の封筒に、本研究科ホームページに掲載する「受験票送付用封筒貼付用紙」を貼付の上、郵便番号・住所(日本国内)、氏名を記入し、84円分の切手を貼ること。 |
| 12 | 可否通知用封筒 | 長形3号の封筒に、本研究科ホームページに掲載する「可否通知用封筒貼付用紙」を貼付の上、郵便番号・住所(日本国内)、氏名を記入すること。 |
| 13 | 入学手続通知用封筒 | 角形2号の封筒に、本研究科ホームページに掲載する「入学手続通知用封筒貼付用紙」を貼付の上、郵便番号・住所(日本国内)、氏名を記入すること。 |

5. 出願手続

出願者は、入学検定料を納入のうえ、2022年1月20日(木)16時必着で、上記出願書類等を本研究科ホームページに掲載する「出願書類送付用封筒貼付用紙」を貼付した角型2号の封筒に入れ、願書受付期間内に、郵便局窓口にて簡易書留速達により、工学研究科教務課宛に郵送すること。(提出方法は郵送に限り、締切後に到着したものは、いかなる事情があっても受け付けない。)

なお、海外からの出願者は、出願期間前に教務課入学試験係に事前連絡を行うこと。

[郵送先]

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院工学研究科教務課入学試験係

◎注意

(1) 志願者は出願前に志望指導教員あるいはマテリアル系事務室に事前照会すること。

マテリアル系事務室連絡先

電話 052-789-2761

FAX 052-789-3225

Eメールアドレス officemate@material.nagoya-u.ac.jp

場所 工学部5号館2階 (キャンパスマップ建物番号⑤)

(2) 書類に不備がある場合には、受け付けないことがある。

(3) 出願手続後は、いかなる事情があっても書類の書き換え及び返却は認めない。

(4) 出願書類について、虚偽の申請、不正等の事実が判明した場合は、入学許可を取り消すことがある。

(5) 出願に際して不明な点は、8頁11(4)の照会先まで問い合わせること。

6. 検定料の払込方法

(1) 検定料 30,000 円

別途、払込手数料(コンビニ支払い:616 円 クレジットカード:840 円)が必要となる。

(2) 払込期間(日本時間)

2022年1月17日(月)から1月20日(木)15時まで

ただし、出願書類は郵送により2022年1月20日(木)16時必着としているため、3頁記載の願書受付期間を十分に確認した上で、検定料は早めに支払うこと。

(3) 払込方法

入学検定料の支払いは、以下のいずれかの方法で行うこと。

詳細については、別紙「コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払方法」を確認すること。

ア コンビニエンスストア(日本国内のみ)

イ クレジットカード

(4) 入学検定料の返還について

出願書類を受理した後は、納入済みの入学検定料は返還しない。ただし、以下に該当する場合は、納入された入学検定料を返還する。なお、返還にかかる振込手数料は志願者負担とする。

ア 入学検定料納入後、出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合

イ 入学検定料を二重に払い込んだ場合

※ 入学検定料の返還は銀行振込で行う。海外の銀行の口座に返還する場合には、返還される金額は大きく減額される他、返還に多大な日数を要するので、入学検定料の納入は慎重に行うこと。

※ 返還請求方法については、名古屋大学ホームページ(<http://www.nagoya-u.ac.jp/>)→入学案内→大学院入試・学部編入試験など→入学検定料についてを確認すること。

7. 選抜実施方法及び試験日程

専門領域の研究遂行にふさわしい基礎的知識、理解力及び語学力について、出願書類による書類審査及び口頭諮問により選抜を行う。

(1) 日時・場所

2022年2月中に実施する。詳細は別途専攻から連絡する。

場所：名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院工学研究科

(2) 方法

筆記試験・口頭試問又はいずれか一方により行う。

筆記試験の科目は、外国語(英語)、基礎部門、専門部門とする。

なお、外国語(英語)については、英語検定試験スコアにより判定する。

(3) その他

試験日時・具体的な場所など選考に関する詳細は、各専攻から別途出願者へ通知する。

8. 合格発表

2022年3月18日(金)16時

本研究科ホームページに掲示するとともに合否結果を本人宛に通知する。

9. 入学手続

入学手続に関する詳細については、合否結果通知時に併せて通知する。

2022年3月28日(月)(予定)までに郵送により行う。

10. 授業料等学生納付金

(1) 入学料 282,000 円〔予定額〕

入学手続時に納付すること。

ただし、本学大学院博士前期課程(修士課程)を修了し、引き続き本課程に進学する者及び国費外国人留学生は、入学料を要しない。

(2) 授業料 前期分 267,900 円(年額 535,800 円)〔予定額〕

授業料は、前期及び後期の2期に分けて納入する。また、納付については、授業料口座振替(代行納付制度)により取り扱う。

ただし、国費外国人留学生は、授業料を要しない。

(注1) 入学手続き完了後は、納付済みの入学料は返還しない。

(注2) 入学時又は在学中に学生納付金の改定が行われた場合は、改定時から新たな学生納付金額が適用される。

11. その他注意事項

(1) 障害がある者等で、受験上特別な配慮を必要とする者は、2022年1月7日(金)までに、下記(4)の照会先まで申し出ること。

なお、修学上特別な配慮を必要とする者も同様に申し出ること。

(2) 出願後に志願票及び返信用封筒に書かれた住所、電話番号、Eメールアドレスを変更した場合は、速やかに下記(4)の照会先まで連絡すること。

(3) 工学研究科及び志望専攻の概要・入試情報等については、本研究科ホームページを参照すること。

URL <https://www.engg.nagoya-u.ac.jp>

(志望専攻の概要) <https://www.engg.nagoya-u.ac.jp/dept/index.html>

(入試情報) <https://www.engg.nagoya-u.ac.jp/prospective/graduate/admission.php>

(4) 入学試験に関する照会先

名古屋大学大学院工学研究科教務課(ES 総合館3階)

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

電話(052)(789)3978・3974 e-mail: eng-admission@adm.nagoya-u.ac.jp

(5) 名古屋大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「東海国立大学機構安全保障輸出管理規程」を定めて、技術の提供及び貨物の輸出の観点から外国人留学生の受入れに際し厳格な審査を行っている。

規制されている事項に該当する場合は、入学が許可できない場合や希望する研究活動に制限がかかる場合があるので、注意すること。なお、詳細については以下の安全保障輸出管理に係る Web サイトを参照すること。

<http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/graduate/security/>

(6) 災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、次のホームページにより周知するので、出願前や受験前は特に注意すること。

工学研究科ホームページ

URL <https://www.engg.nagoya-u.ac.jp/>

12. 個人情報の取り扱い

住所・氏名・生年月日その他の個人情報は、入学選抜、合格発表、入学手続及びこれらに付随する事項にのみ利用する。また取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には利用しない。

出願資格(7)により出願する者について

「文部科学大臣の指定した者」

1) 出願資格(7)により出願する者は、次の①又は②の要件を満たす者であること。

- ① 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者及び2022年3月末日までに2年以上従事する見込みの者で、学術論文、著書、研究発表、特許等により、修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者。
- ② 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者及び2022年3月末日までに2年以上従事する見込みの者で、学術論文、著書、研究発表、特許等により、修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者。

2) 事前照会（審査）

出願資格(7)により出願する者については、あらかじめ次の書類を2022年1月6日（木）16時必着で、工学研究科教務課〔8頁の11(4)照会先を参照〕へ提出（書留郵便で封筒の表に「博士後期課程事前審査申請」と朱書）し、出願資格の有無について事前照会すること。

本研究科で事前審査を実施し、その結果は2022年1月13日（木）に本人宛に発送する。

- ① 出願資格(7)による出願資格事前審査願（本研究科ホームページ掲載の様式に、本人が記載）
- ② 大学卒業証明書（原本）
- ③ 研究歴証明書（本研究科ホームページ掲載の様式に、所属の長等が証明したもの）
- ④ 推薦書（本冊子とじ込みの用紙に、所属の長等が証明したもの）
- ⑤ 研究実績調書（本研究科ホームページ掲載の様式に、本人が記載）
- ⑥ 研究成果報告書（本研究科ホームページ掲載の様式に、本人が英語2,000語程度で作成、論文形式とする）
- ⑦ 学術論文、著書、研究発表、特許等の写しの添付

3) 出願書類等

上記事前審査の結果、出願資格有と判定された者の願書受付期間及び出願書類等は、3頁3及び4頁4を参照すること。

出願資格(8)により出願する者について

1) 出願資格(8)により出願する者は、次の①及び②の要件を満たす者であること。

- ① 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、2022年3月末日までに24歳に達している者。
- ② 学術論文、著書、研究発表、特許等により、修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者。

2) 個別審査

出願資格(8)により出願する者については、あらかじめ次の書類を2022年1月6日(木)16時必着で、工学研究科教務課〔8頁の11(4)照会先を参照)へ提出又は郵送(書留郵便で封筒の表に「博士後期課程個別審査申請」と朱書)し、出願資格の有無についての個別審査を願い出ること。

本研究科で個別審査を実施し、その結果は2022年1月13日(木)に本人宛に発送する。

- ① 出願資格(8)による出願資格個別審査願(本研究科ホームページ掲載の様式に、本人が記載・捺印)
- ② 履歴書(本研究科ホームページ掲載の様式に、本人が記載)
- ③ 修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があることを示す資料
 - (a) 履歴に短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等の学歴を有する者
これらについての卒業又は修了証明書(原本)[今年度中に卒業又は修了する見込みの者については、その証明書(原本)]、学業成績証明書(原本)及びシラバス(授業要目)
 - (b) 履歴に技術的・専門的職業についての職歴を有する者
その期間及び職務内容を明記した在職証明書(原本)
 - (c) 履歴に研究歴を有する者
研究歴証明書(本冊子とじ込みの用紙に、所属の長等が証明したもの)
研究実績調書(本冊子とじ込みの用紙に、本人が記載)
研究成果報告書(本冊子とじ込みの用紙に、本人が英語2,000語程度で作成、論文形式とする)
- ④ 学術論文、著書、研究発表、特許、作品等の写し
- ⑤ その他、審査の参考となる資料(自薦、他薦による推薦書など)

3) 出願書類等

上記個別審査の結果、出願資格有と判定された者の願書受付期間及び出願書類等は、3頁3及び4頁4を参照すること。